

ジェイエムシー「Hard Lock」

高セキュリティと利便性を両立し 校内LAN時代の「安心」を実現

ネットワーク時代にはセキュリティ対策が欠かせないが、学校内のLANの場合、対策の遅れは個人情報漏洩などの事件にも発展しかねない。

セキュリティに優れると同時に利便性の高い校内LANをどう構築するか。

青森県八戸市の小中学校でこの課題を解決するために活躍するのが「Hard Lock」だ。



戸来 忠雄(へらい ただお)氏
八戸市教育委員会総合教育センター
指導主事

校内LAN時代だからこそ “電子書庫”が必要だ

「学校内情報ネットワークには“電子書庫”が必要だ。」青森県八戸市教育委員会総合教育センターの戸来忠雄氏がこの結論に辿り着いたのは2年前のことだった。同氏は3年前に同センターの指導主事に着任以来、市内の小・中学校の「情報教育、教育情報ネットワークシステム」を推進してきた。

小・中学校にも情報化の波は急ピッチで押し寄せ、校内LANも急速に普及し始める。そうなるITを活用した授業改善が推進される一方、生徒の個人情報など

の漏洩の危険性も高まる。

成績表の紛失など紙ベースの文書時代には人為的ミスを防げばよいが、デジタル時代にはちょっとした操作ミスが命取りになりかねない。事故が起こってからでは遅い。未然に防ぐにはどうしたらよいか…。考えた末に辿り着いたのが冒頭の“電子書庫”だったのである。

デジタル時代に書庫とは不思議な気もするが、この発想の原点は、学校教育法施行規則15条に基づき同市教育委員会が定めた文書取扱要領にある。八戸市の小・中学校では、一般文書は分類表に基づき簿冊ごとに管理しているが、個人情報等の機密性の高い文書類は、各学校が

設置している耐火書庫で保管・管理している。紙の文書類は、この要領にしたがって厳格に運用されている限り安心だが、電子情報にはこの書庫に相当するものがない。

調べてみると、漏洩しては困るような情報も校内LAN上や個人用パソコンで相当使用されている。そこで、校内LAN時代に有効に機能する“電子書庫”があればよいという考えに至り、周囲を熱心に説得、2004年の情報教育予算に盛り込むことまででこぎつけた。

そうした折、2004年5月には兵庫県姫路市の県立高校で、CD-ROMとMOに保存されていた受験生300人分の調査書の内容が漏洩するという事件が新聞紙上を賑わせ、なおのことその必要性を確信したという。

校内LANのセキュリティを 確保する「Hard Lock」

校内LANのセキュリティを確保するにあたっては、「子どもたちが利用するネットワークと、教職員だけが接続できるネットワークを、全く別系統になるよう整備することが望ましい」とされている(文部科学省 校内ネットワークの在り方に関する調査研究委員会編『校内ネットワーク活用ガイドブック』)。

理論上は確かにそうだが、予算には限り

〈沿革〉
昭和41年4月:八戸市理科教育センターとして発足。
昭和53年9月:八戸市教育センターに改称。
平成 3年2月:八戸市教育情報ネットワークシステム(HENS)運用開始(中学校)。
平成 4年1月:HENS全面運用開始(小・中学校・教育委員会各課)。
平成 8年2月:インターネット機能を追加。
平成11年3月:市立各小中学校のコンピュータ室にインターネット回線を延長。
平成13年2月:文部科学省及び総務省より次世代ITを活用した未来型教育研究開発事業の指定を受け地域ネットワークセンターとなる。
平成15年9月:インターネット専用線の通信速度を6Mbpsに増速。光ファイバーによる学校・センター間イントラネット構築。



八戸市教育センター
〒031-0803
青森県八戸市諏訪1丁目2-41
TEL. 0178-46-0521(代)

市立小学校:43校(児童数 15,363名、558学級)。市立中学校:22校(生徒数 8,045名、263学級)。

がある。LANを物理的に2回線に分けて敷設するわけにはいかない。同時に、いかにセキュリティを確保するためとはいえ、操作が複雑になっては、パソコンアレルギーのもとにもなりかねない。それでは本末転倒だ。

校内LANにおける情報セキュリティの検討を進め、様々な情報を集める中で出会ったのがジェイエムシーの「Hard Lock」だった。

「Hard Lock」は、専用ソフトウェア、ユーザー認証サーバー、専用HUB、ユーザー認証キーから構成されたセキュリティシステムで、新設、既設を問わず、校内LANに組み込んで使用する。使い方は実に簡単。教師が自分専用のユーザー認証キーをUSB端子に挿し込むと校務用LANに切り替わり、生徒の個人情報など重要なデータの保存されたサーバーにアクセスできる。認証キーを抜くと、生徒も使える通常の校内LANに戻る。つまり、校務管理システムと学習利用システムに二重化できるのである。

生徒の個人情報をパソコンで扱っている最中に生徒が来たときも、ユーザー認証キーを抜けば即座にネットワークから抜け出せるから安心だ。

面倒な操作も不要で、意識せずにセキュリティ効果が得られる。その上、校務用サーバーには校長管理用、教頭・教

務・事務管理用・一般教員作業用のセキュリティレベルに応じた3層構造の電子書庫を設定できるので、これまでの紙文書と同様、文書取扱要領に基づいた管理も可能だ。

そこで同システムの導入を決め、まず校内LANを敷設する市立根岸小学校(18学級、284人)に導入した。さらに今年3月に向け、市立長者中学校(13学級、223

人)、市立小中野中学校(9学級、157人)、市立白銀中学校(16学級、241人)、市立大館中学校(14学級、224人)への導入を進めている。また、現行の文書取扱要領を個人情報管理を含めた電子情報管理という視点で見直し、「情報取扱要領」へ改訂する作業も進行中だ。

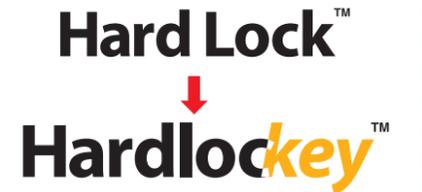
今年度は「Hard Lock」の評価期間として運用を進め、効果を見た上で全市内の小・中学校の校内LANのセキュリティアップにつなげたい、と戸来氏は展望する。

ジェイエムシーは、1986年から学校教育分野へ進出、実践を通じ事業計画の提案、システムの設計・構築、運用サポート、教員研修、授業活用支援というトータルサポートで、首都圏を中心に約600校に上る導入実績がある。

その過程から生まれた「Hard Lock」はセキュリティと利便性を両立する校内LANセキュリティ専門商品として今後もますます活躍しそうだ。

Hard Lockがバージョンアップ 「Hardlockey」2005年5月新登場!

USBキーを利用した「Hard Lock」が、バージョンアップ!
校内LANのセキュリティを優れた利便性と両立したキーソリューションが「Hardlockey」としてよりパワフルになって新登場する。



新登場の「Hardlockey」は、従来のUSBキーに加え、安全にファイルを移動できるように、USBフラッシュメモリーにも対応。同時に「ファイルアクセスログ機能の強化」、出力するプリンターの指定や印字枚数の制御を行う

「プリンター出力制御機能」、作成したファイルを自動的に暗号化して保存する「ファイル自動暗号化機能」などが加わり、さらにセキュリティが高まった。製品は、2005年5月以降順次出荷開始予定。

詳細は → <http://www.jmc.ne.jp/>

